
巻頭言

「訪日外国人増加に伴う心構え」

公益社団法人 日本防犯設備協会 常任理事
株式会社東芝 産業政策渉外室 官公庁担当 グループ長 子安 信彦



私は昨年6月に当協会の常任理事を拝命し、当協会の活動に参加致しました。この度、「日防設ジャーナル」の『巻頭言』執筆のご依頼を受け、筆を執らせていただきます。巻頭言への執筆は初めての機会ですので、不肖ながら自己紹介をさせていただきます。

私は今の会社で30年近く勤務しておりますが、長きにわたり半導体事業に携わってきました。その中で、特に、中華地域向けの販売業務を長く担当し、現地にも合計で11年（北京9ヶ月、上海3年間、青島3年間、台湾4年3ヶ月）滞在しました。その後、昨年4月に現職に就き、日防設の活動に参加させていただくことになりました。

さて、私が長く携わってきた中国に初めて足を踏み入れた1999年から、今年ちょうど20年になります。ご承知の通り、この20年間で中国は大きく変化致しました。経済は大きく成長し、日本を追い抜き、世界第2位の経済大国となりました。また、経済発展とともに、所得が向上し、受入国のビザ要件の緩和などに伴い、中国人の海外旅行者が大きく増加しました。訪日中国人数は1999年の29万4937人（資料：日本政府観光局（JNTO））から、2018年には838万人まで増えました。訪日中国人の増加が牽引し、2019年1月16日にJNTOにより発表された2018年の訪日

外客数は、対前年比8.7%増の3,119万2千人となり、統計を取り始めた1964年以降最多の数字を出しています。更に、今年度から来年度にかけて、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック等の大きなイベントの開催を控え、訪日外国人の数は増加の一途をたどります。

訪日外国人数の増加に従い、様々な形での犯罪の増加が懸念される中、協会活動の重要性が益々増していきます。私が日防設の活動に参加して間もなく1年を迎えますが、防犯に対する当協会のこれまで果たしてきた大きな役割、会員の皆様や関係機関・団体の多くの皆様の弛まない努力に触れ、大変感銘を受けました。私も微力ながら協会活動を通じて貢献していきたいと思えます。